

真砂 威

(国際剣道連盟理事)



まさご・たけし／昭和21年広島県生まれ。68歳。私立大阪高校卒、近畿大学中退。昭和45年兵庫県警察奉職、機動隊勤務を経て昭和58年剣道指導専門職へ。平成5年警察庁外向、警察大学校術科教養部教授、主任教授、術科教養部長を経て平成19年退職。現在、警察大学校剣道名誉師範、常任講師。全日本剣道連盟常任理事、国際・広報委員等を歴任。新宿区剣道連盟会長。平成8年八段取得、平成18年範士受称。

兵法の利にまかせて、諸芸・諸能の道となせば、 万事におもて、我に師匠なし

『五輪書』冒頭で宮本武蔵は、このように言い放ちます。その上で「此道におもて、太刀を振得たるものを、兵法者と世に云伝へたり」「太刀は兵法のおこる所也」と説きます。その理由として、武芸の道は数あれど弓の名手を「射手」、鉄砲の上手な者を「鉄砲うち」、槍の腕利きを「槍つかい」、なぎなたの名手は「なぎなたつかい」と言う。しかしながら太刀の道に長けた者を「太刀つかい」、

「脇差しつかい」とは言わない。それは、我が国には太刀の威徳をもって世を治め身を修める、「靈劍思想」というものがあるからだ。靈劍思想は、三種の神器の一つ草薙劍に由来するもので、神威の象徴として現在に至るまで連綿と受け継がれています。若年のみぎり、「これぞ剣道の由緒正しき承伝!」と、座右に『五輪書』を置くことを決意。

爾来幾年。その教えの中で、今もって胸中に銘記していること、その二題をここに紹介させていただきます。

その一つ、「太刀の道」について／太刀の通る道筋を覚えれば、重い太刀も力を用いることなく自由に振ることが出来る。太刀を速く振ろうと力むから、道に逆らい却って太刀のうごきが鈍くなる。本文では、「はやくきらんとすれば、扇・小刀のやうにはあらで、ちやくときれば、少しもきれざるもの也」と、小手先でする当てつこを戒めています。

その二つ、「速さ」について／速さというのは実の道ではない。間に合わないから、速き・遅き、というのである。上手になれば万事、はやばや（忙しく）と見えないものである。本文では、「はやきはこけるといひて、間にあはず」「上手のする事は緩々と見へて、間のぬげざる所也」と記しています。

『五輪書』の各項目には、必ずといってよいほど「能々鍛錬すべし」、「能々吟味有るべし」といった言葉が付け添えられています。なかなか叶うものではありません。武蔵の享年六十二、をとくに過ぎた今もって思うにまかせぬ日々を過ごしております。

〔宮本武蔵著、渡辺二郎校注『五輪書』（岩波文庫）より〕